

## 武田家と信玄

武田信玄は織田信長に迫りながら陣中で病没してしまいます。歴史観戦者としては両者の一大決戦を見たかったところですが、後を継いだ息子の勝頼<sup>かつより</sup>は9年後に信長に滅ぼされます。

信長、豊臣秀吉、徳川家康と政権が移りますので歴史はこれ等の人物が中心となりますが、信玄は戦国武将として戦略、戦術、策略の巧みさは抜群に秀でておりました。

甲斐（山梨県）を本拠地として周辺国である信濃（長野県）、駿河（静岡県）、西上野（群馬県西部）、三河（愛知県東部）と遠江（静岡県西部）の一部を支配下に置きました。

当時信長に対等に対抗できる戦国大名は信玄だけだったでしょう。

信玄も一朝一夕で勢力を得たのではありません。外交戦略と戦術を駆使して一大勢力となったのです。

但し信玄が武田の当主になった時には甲斐一国は親の信虎時代に支配下にありました。すでに一国一城の主からのスタートです。

信玄は親に謀反をおこし親を追い出し（駿河の今川家に）て武田家の当主となりました。

それでは甲斐の武田家とどんな家だったのでしょうか。

先祖は清和源氏で、平安時代の中頃の前九年の役（奥州安倍氏の乱）で活躍した源頼義の子義光を始祖とします。

義光は常陸の武田に住みましたが、その子たちが甲斐に移り住みました。これで甲斐の源氏を武田と称するようになりました。

甲斐に移った武田家は源頼朝の鎌倉幕府の立ち上げに協力し、その後の足利尊氏の室町幕府立ち上げにも協力して、歴代甲斐国の守護を任じられて来ました。源家の名門です

清和源氏の嫡流の頼朝の源氏が途絶えた後、甲斐源氏と言われた武田家を將軍推戴との一派もありましたが、実現しませんでした。

この甲斐源氏武田氏の一族には常陸国の守護佐竹氏、安芸国の守護（その後分郡守護）武田氏、若狭国守護武田氏、信濃国守護小笠原氏、東北の南部氏とそうそうたる戦国大名が列座します。

信玄は甲斐武田家の19代当主です。

大永元年（1521）生まれで天正元年（1573）病没します。病名は分かりませんが、数カ月は患っていたようなので、癌か結核でしょうか。

信長と決戦のため美濃に遠征の途中の陣中で没しました。

お父さんのことです。

お父さんの信虎も凄腕の武将でした。信虎がその先代から受け継いだ時は守護家といえども甲斐国内は多くの領主がいて一つにまとまっていませんでした。

信虎はこれをまとめました。

しかし家臣団と嫡男の信玄に謀反され追い出されました。信玄は父親に嫌われ嫡男の地位が危ないと感じていたことと家臣は自分たちの勢力を削る信虎を嫌い両者が結びついたのでした。

信玄の息子です。

嫡男は正妻の子の義信が決まっていたのですが、この子が信玄に謀反を起こそうとしたので自殺に追い込みました。信玄の駿河攻撃の前の永禄10年（1567）のことです。親も子も親に謀反を起こし、起こそうとする一家です。

そして四男の勝頼が家督の地位につきます。

勝頼の母親は信玄が滅亡させた隣国信国諏訪の城主諏訪頼重の娘です。名乗りも諏訪四郎勝頼ですので本来は諏訪家を継がせるつもりでしたが嫡男義信の謀反で急遽起用されたのです。

話は戻って、当主になった信玄は家臣を厳しく統率して、家臣に主導権を渡しません。

直ぐに西・北隣の信濃国の侵略にかかりかます。

そのために東・東南の武蔵・相模の北条氏と南の駿河の今川氏と同盟を結びます。これを甲相駿同盟と呼んでいます。信濃以外の二国とは不可侵条約を結び、信濃への侵略を謀ったのです。

信濃の諏訪氏、木曾氏、小笠原氏、村上氏等を武略をもって滅亡させました。

彼らは逃げて信濃北の越後の上杉氏を頼ります。

謙信は彼らの失地回復として信濃へ侵出します。信玄が向かい打ちます。

これが川中島の合戦です。

場所は信濃国北部の千曲川と犀川さいかわとの合流地点の川中島です。天文22年（1

553) から永禄7年(1564)までの間に5回行われました。

最も有名なのが永禄4年の激戦です。

謙信が信玄の本陣に切り込み、謙信が馬上から信玄に打ち込み、信玄は軍配で打ち止めたと、まさに一騎打ちの話が伝わっていますが、本当かどうか分かりません。

信玄の弟の信繁が戦死、双方相当の戦死者が出ました。

勝敗は双方勝ったと言っています。

勝敗について後年、歴史関係者の間で論争がありましたが、現在は信玄の勝ち説が優位ようです。

それは戦後、この地区(川中島を含む北信濃)を支配したのは信玄だからです。

尚、この戦いで信玄の軍師山本勘助の討ち死にが「甲陽軍鑑」で伝わっていますが、「甲陽軍鑑」と山本勘助については後述します。

信濃を制覇した信玄は信濃の東の西上野にも侵出し、支配しました。

次に信玄は南の駿河に目をつけます。

駿河の今川氏は永禄3年(1560)の桶狭間の戦いで義元が織田信長に討ち取られ、息子の氏親が当主です。今川は相模・武蔵支配の北条と同盟して信玄に対します。先の甲相駿同盟は破棄となります。

信玄は北の上杉謙信、東の北条氏康、南の今川氏真に囲まれる形になります。そこで西の美濃の織田信長とその同盟者徳川家康と提携します。不戦協定です。

そして今川と北条と対戦します。

義元後の今川では北条の援軍があっても信玄軍の攻撃には支えられません。氏真の今川家は滅亡です。駿河は信玄のものになりました。

北条も一度は小田原城を信玄に囲まれ危機でした。北条も氏康の遺言で信玄と和議し手を結びます。

東の北条とは不戦協定、上杉は北にありますが、動きがありません。

今度は西の信長と決戦を目論んで京を目指します。先の信長との提携は破棄します。

そして遠征途中で病没してしまいます。

西・北の信濃を攻める時は東(北条)と南(今川)と手を結び、駿河の今川を攻める時は西の織田と手を結び、西(織田)を攻める時は北条と手を結び攻撃を仕掛けます。

合戦に強いだけでなく外交戦術を駆使しました。

信玄は京の足利義昭、越前の朝倉、近江の浅井、大坂の本願寺とも連携しての織田への攻撃です。

もし決戦あれば勝敗はどうであったでしょうか。

武田信玄と言えば江戸時代にはいつて発表された軍学書「甲陽軍鑑」と山本勘助のことです。

元は信玄の側近である高坂弾正が新主勝頼の側近である長坂長閑と跡部大炊助への忠告書で、これを江戸時代初期の軍学者小幡景憲が編集したものとされています。

事項の日付に明らかに間違いの部分があり、長く信頼されない史料されて来ましたが、最近では歴史書ではなく当時の思想を知るうえで参考になるとされています。

この「甲陽軍鑑」の中で山本勘助が信玄の軍師として登場します。長く架空の人物とされて来ましたが、昭和40年代に信濃の豪族の市河家に伝っている信玄からの書状の中に軍使としての山本管助の名が見えることから、実在の人物説が浮上しています。勘が管ですが同じ人物であろうと。

ただ足軽大将、又信玄の側近であったかも知れないが軍師であったとは考えられないとの説が多いです。

最後に信玄が作ったと言われる詩です。

「人は城 人は石垣 人は堀 情けは味方 あだは敵なり」有能な人があれば城、石垣や堀はいらない。みんなの情けが味方ある。攻めて来る者が敵なのだ。

これが一般の解釈です。信玄が作ったと言われてはいますが、分かりません。

筆者はこれを次のように解釈します。

「人」とは信玄のことと読みます。

「信玄自身が城で堀 信玄へ味方する者が家来 信玄に反抗する者が敵である」

なぜなら城を持たなかった信玄亡き後、息子の勝頼は城を築きましたが信長の攻撃では役にたたず、又家臣のほとんどに裏切られて滅亡してしまったからです。

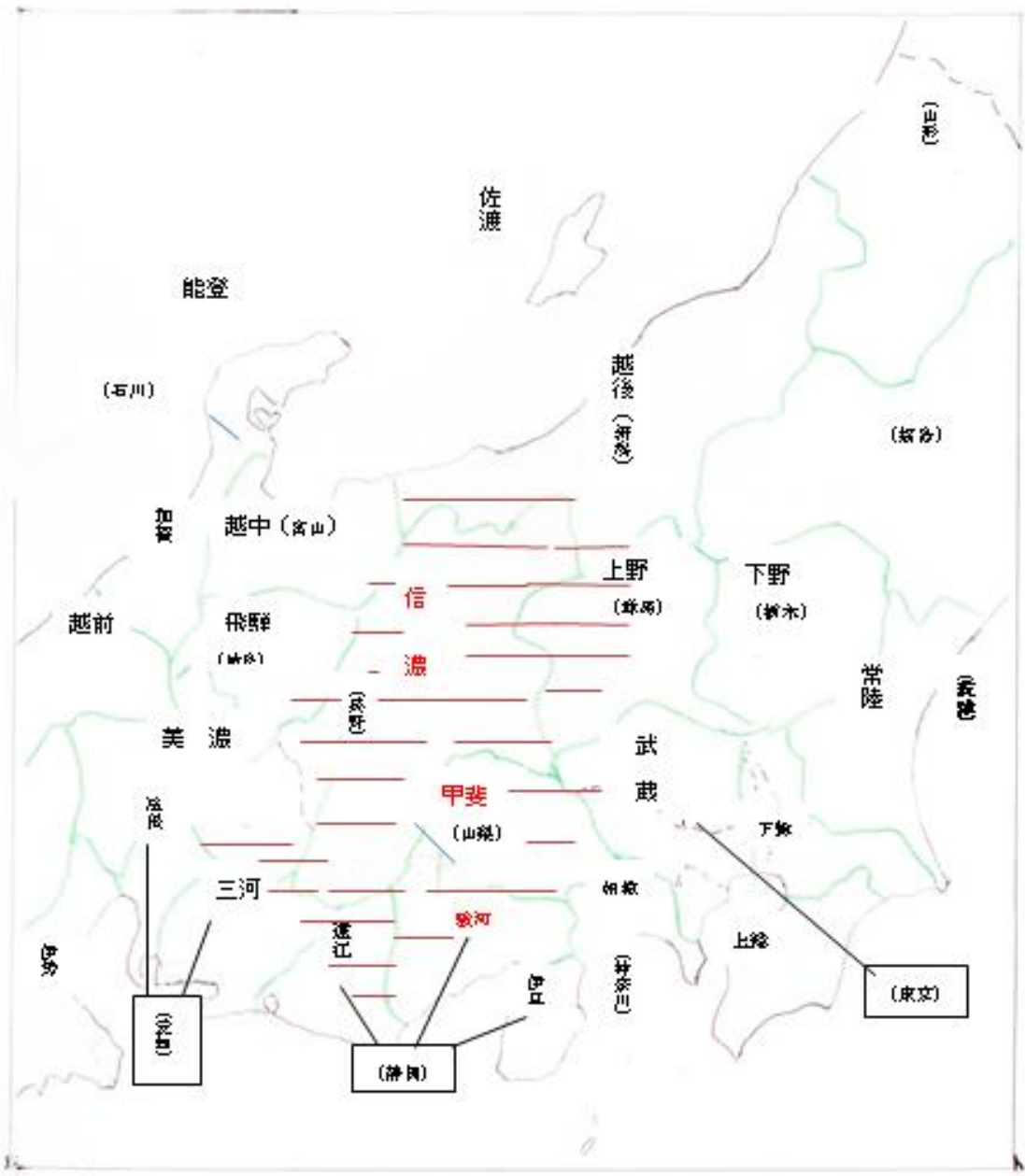
人とは武田家や家来のことではなく信玄その人のことと解釈すべきでしょう。

以上

2020年4月12日

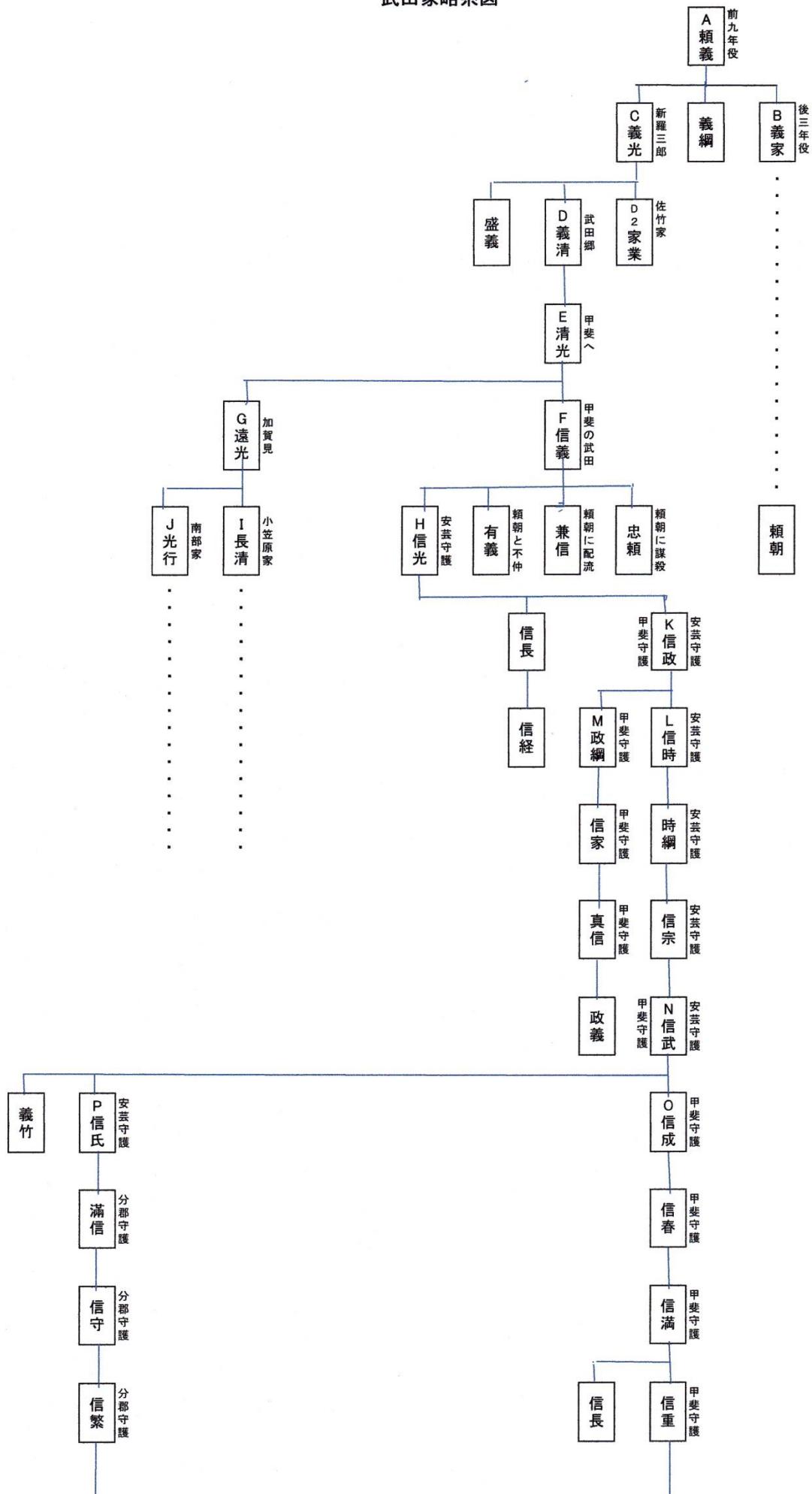
梅 一声

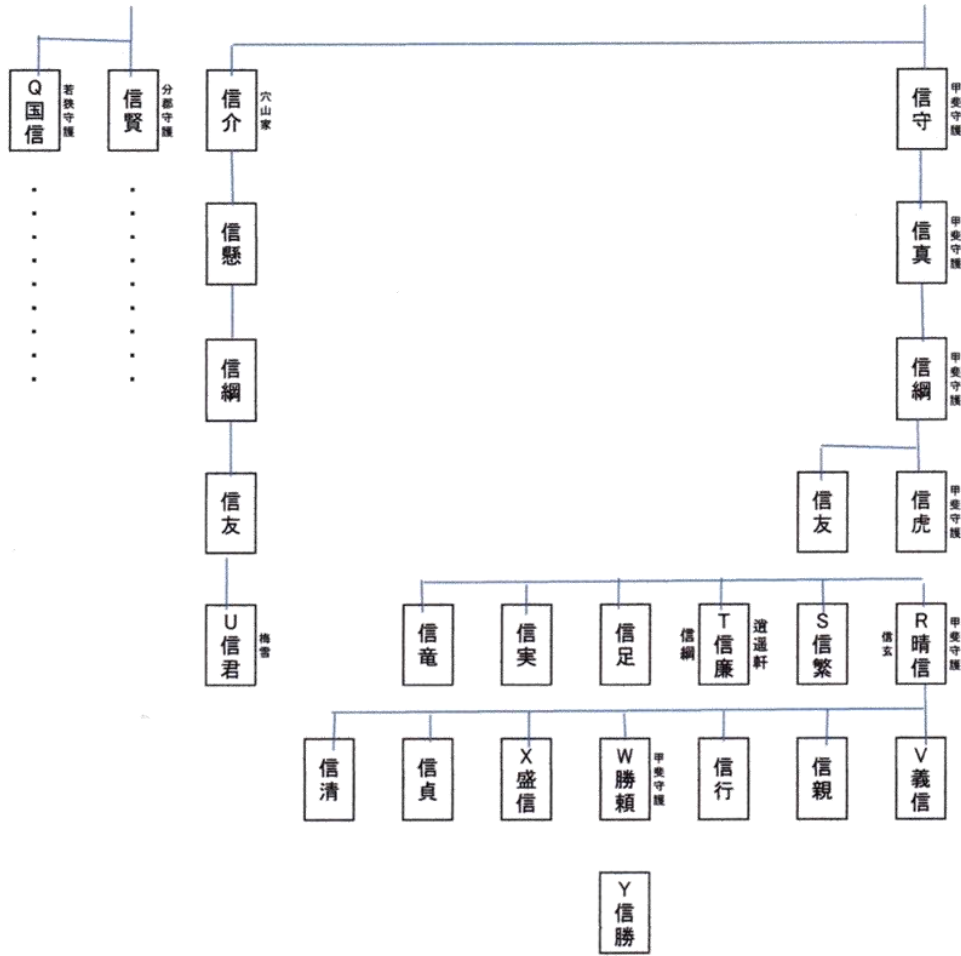
武田信玄の領域図



信玄の領域：赤字国・赤線範囲

# 武田家略系図





- A 頼義: 前九年役(1062年)で奥州安倍氏を討伐に功勞、清和源氏の本流
- B 義家: 頼義の子、後三年の役(1087年)で奥州清原氏内訌を鎮圧、源氏の嫡流本家、頼朝に続く
- C 義光: 頼義の子、義家の弟、後三年の役で活躍後常陸に移住、足利家一世
- D 義清: 常陸の武田郷に住む、その後甲斐に移住させら、武田を名乗る
- E 清光: 親の義清とともに甲斐へ移住させられる
- D2 家業: 義清の兄の家業は常陸佐竹郷に残り、佐竹を名乗る、戦国時代も常陸佐竹、江戸時代は秋田で大名
- F 信義: 清光の子、J甲斐の武田に移住、頼朝挙兵に協力
- G 遠光: 清光の子、子の長清が信濃守護小笠原の祖、同じく子の光行が奥羽の南部の祖
- H 信光: 親の信義の頼朝への貢献で頼朝から安芸守護を拝命
- I 長清: 遠光の子、信濃守護小笠原家の祖
- J 光行: 遠光の子、奥羽の南部家の祖
- K 信政: 信光の子、頼朝との関係よく安芸ともに甲斐も守護
- L 信時: 親の信政から安芸守護を引き継ぐ
- M 政綱: 親の信政から甲斐守護を引き継ぐ
- N 信武: 政綱の曾孫の安芸守護政義が後醍醐に味方し没落、信武は足利尊氏に味方し、甲斐とともに安芸の守護も兼帯
- O 信成: 親の信武から甲斐守護を引き継ぐ
- P 氏信: 親の信武から安芸守護を引き継ぐ
- Q 国信: 氏信の子孫は安芸守護を受け継ぐが、5代後国信が若狭守護、兄が安芸の分郡守護となる
- R 晴信: 信玄、親の信虎を追い出し当主となる、甲斐を基盤に信濃、西上野、駿河、遠江と三河の一部を支配し戦国の大大名
- S 信繁: 信玄の弟で川中島で戦死
- T 信廉: 遺運軒、信玄の弟で信玄の影武者と言われていた
- U 信君: 梅雪、一族筆頭、武田滅亡の時に織田信長に味方
- V 義信: 親の信玄に謀反、自殺
- W 勝頼: 兄の義信自殺で嫡男となり、当主となる、信長によって滅亡
- X 盛信: 勝頼の弟、武田滅亡時に自殺
- Y 信勝: 勝頼の息子、武田滅亡時に勝頼と共に自殺

注1 O信成の筋に上総の武田がでます、上総の庁南、真里谷に拠点がありましたが、小田原合戦で北条に味方して滅亡  
 注2 常陸にも武田があり、徳川水戸藩に二家が仕えた、12代信春の子信久の子孫と言われている